【山崎名誉主宰の俳句】

卒　寿

山崎　聰

夕ざくらいのちのおわりたるあとも
彼彼等そしてわれらも卯月波
刃物よりことばの光る五月かな
東京を出るときひとり桐の花
蚊も蠅も壁に眠りて夜の地震
ひとり居のいちにち長し朴の花
八月某日卒寿というはさびしかり
蟬の木に蟬があつまり子とろ唄
空高く水かげろうの立つあたり
流星の落ちゆく先は彼の世とも